



Joetsu Symphony Orchestra

78th Regular Concert

長谷川正規:指揮 三溝健一:コンサートマスター

上越交響楽団第78回定期演奏会

2017.3.19[日]

14:00開演(13:30開場)

上越文化会館 大ホール

主催:上越交響楽団

後援:上越市教育委員会 妙高市教育委員会

※未就学児をお連れのお客様は、他のお客様のご迷惑にならないようご配慮願います

本日は上越交響楽団の定期演奏会にお越し下さいまして、まことにありがとうございます。

本日の演奏曲目はドイツとオーストリアの大作曲家達の有名な曲です。

天才と言われる作曲家ってどうして早死になんだろうと言われる代表がシューベルトで、33歳で亡くなりました。特に歌曲ではたくさん名曲を残しています。時にレストランのメニューの紙に楽譜を書いたとか。そんな彼は管弦楽の分野でもたくさんの曲が有ります。その頂点が「未完成交響曲」です。交響曲は普通4楽章から成り立っているのですが、この曲は2楽章で終わっています。それで色々憶測が飛び交っているのですが、丁度その頃失恋して、その悲しみを曲に書いて2楽章の終わり頃に来たら、新しく希望を持つ出来事があった、突然曲が明るく終わってしまった。だから2楽章で未完成のまま完成してしまった〜。のかな。「若者よ恋をしよう。失恋したら人間が深くなる。」

ベートーヴェンは、苦悩から歓喜へというテーマで多くの曲を作りました。その代表が交響曲第5番「運命」です。その縮小版の様な曲が「エグモント序曲」なんです。

シューマンはベートーヴェンを見習おうとしてもそう深刻になれず、割と楽天的だった。だから「春」という名交響曲になったのかな。

そんな難しいことなんか考えずに楽しく花の下でワルツでも踊ろうよとアンコール曲です。内緒ですが。

指揮者

Masanori Hasegawa

長谷川正規

東京藝術大学音楽学部器楽科（チューバ専攻）を卒業。同大学大学院音楽研究科修士課程修了。学部在学中に安宅賞を受賞。ソリストとして、松尾葉子指揮藝大フィルハーモニア、故岩城宏之指揮オーケストラアンサンブル・金沢等と共演。チューバ奏者として管弦楽・吹奏楽・室内楽の領域で活動するほか、指揮の活動も盛んに行っており、上越交響楽団、上越市民吹奏楽団、新潟市北区フィルハーモニー管弦楽団の定期公演をはじめ、ミュージカル「春のホテル」、オペラ「ヘンゼルとグレーテル」「愛の妙薬」「売られた花嫁」等で指揮者を務める。これまでにチューバを稲川榮一氏に師事。現在、上越教育大学大学院学校教育研究科准教授。



コンサートマスター

Ken-ichi Samizo

三溝健一

松本市出身。4歳よりヴァイオリンを始め、片岡世界、正岡紘子、山岡耕筈、天満敦子の各氏にヴァイオリンを、東京音楽大学にて井上將興氏にヴァイオリン及び室内楽を師事。肥沼きよ、竹内邦光、丸山嘉夫、松本紀久雄、汐澤安彦の各氏にピアノ・ソルフェージュ・音楽学・指揮法を師事。大学在学中よりソロ・室内楽・オーケストラ・オペラ等、幅広く演奏活動を行う。殊に「ENSEMBLE“藝弦”（弦楽合奏）」「室内楽“EAU”（ピアノアンサンブル）」を中心に研鑽を積み現在は「音泉室内合奏団」を主軸に活動を展開、編曲も多数手掛けている。また、関東信越各地の市民・学生オーケストラと室内楽にて演奏指導と活動の発展に尽力、また初心者から専門課程の学生及び演奏家の個人レッスンなど広く後進の育成にもあたる。足立シティオーケストラ・松本交響楽団・上越交響楽団・柏崎フィルハーモニー管弦楽団、他／常任・客演コンサートマスター、副指揮者（足立・松本）。音泉室内合奏団／ソロ・コンサートマスター、音楽監督。池袋音楽学院 講師。Gruppo Violini 主任講師。Musica Rospo 主幹。



プログラム&曲目解説

■ベートーヴェン／「エグモント」序曲

ベートーヴェンは同時代に活躍した詩人ゲーテを敬愛していたことから、1809年にゲーテが書いた戯曲「エグモント」の新舞台のための付随音楽作曲を依頼された際、喜んで受諾したそうです。この戯曲は16世紀初め、スペイン支配下にあったオランダの独立戦争において活躍したエグモント伯爵を題材にしたもので、当時ナポレオンの支配により抑圧されていたオーストリアの民衆の感情に同調して多くの支持を得た作品でした。ベートーヴェンは序曲

の他に9つの付随音楽を作曲しましたが、序曲だけは早々にパート譜が出版されて、独立した「演奏会用序曲」として演奏会の幕開けとして各所で演奏されるに至りました。

序曲はあらすじのダイジェスト版として構成されています。エグモントの英雄性を表したテーマで始まり、劇の最後を「勝利のシンフォニー」で締めくくるといいうゲーテの指示に沿って、最後は急激なクライマックスになっています。

■シューベルト／交響曲第7番 口短調 D. 759 「未完成」

「未完成」の副題に示されるように、作曲者の死により作品が未完になることは少なからずありますが、この曲の場合は死の6年も前に着手されているながら完成に至らなかった経緯があり、理由は解明されていません。シューベルト自身が意図的に放置したのか、それとも無意識に忘れてしまったのか、あるいはそもそもこの曲が本当に未完なのかなど、確たることは不明のままです。

シューベルトはこの交響曲において、古典的で簡素なオーケストラ編成ながら各楽器独自の響きを効果的に用いて、美しく豊かな音色を創出することに成功しました。歌うような旋律は、それまでの交響曲の典型であった堂々とした曲調とは大きく異なり、ロマン的な響きを帯びています。これには口短調という調性が大きく影響しています。多くの交響曲が生まれた18世紀において選択された調性の大多数は長調でした。演奏会の冒頭に配置され人々の気を引きつける役割のために、悲嘆や苦悩などを連想させる短調の出番はほとんどありませんでした。19世紀に入ると、交響曲の多様化により短調作品が大幅に増加しまし

た。中でもハ短調とニ短調が突出して多く、「未完成」の口短調が使われることは珍しいことでした。シューベルトはこの口短調が表出する音色、叙情的な旋律、それらを奏でる楽器独自の響きをフル活用することで、未完か完成かの問題を超越して人々にそれまでの交響曲には無かった感動を与えました。

第1楽章 アレグロ・モデラート

低弦の陰鬱な響きに始まり、オーボエとクラリネットによるはかなさと悲哀を感じさせる第1主題が続きます。第2主題はシンコペーションのリズムに伴奏されチェロにより奏されます。主題を素材とする展開部で何度かのクライマックスを経て緊張に満ちたまま楽章を終えます。

第2楽章 アンダンテ・コン・モート

短い導入句の後にチェロの対旋律を伴ってヴァイオリンが第1主題を奏します。第2主題はクラリネットとオーボエが哀愁を帯びた旋律を歌い上げて曲を閉じます。

● 休憩 ●

■シューマン／交響曲第1番 変口長調 作品38 「春」

この交響曲はシューマンがクララと結婚した翌年1841年に作曲されました。クララの父の大反対を押し切って、裁判の末にようやく結婚にこぎ着けたシューマンでしたが、この年を機に幸せを高らかに歌うように歌曲や管弦楽の作曲に精力的に取り組みました。折しも、友人で詩人でもあるアドルフ・ベットガーの詩「おお、雲の精」に感銘を受け交響曲作曲に着手しました。詩の一部にある「雲の精のペールはあつという間に天の明るい星を隠し、私の幸福を脅かし涙を流させる。おお、去れよ去れー谷間には春が咲く！」のフレーズに着想したシューマンは、初稿に「春の交響曲」のタイトルを付し、さらに第1楽章に「春の訪れ」、第2楽章「夕暮れ」、第3楽章「幸福な遊び友達」、第4楽章「春の盛り」の標題を与えようとしたものの、曲の解釈が標題にとらわれることを懸念し後に削除したとのこと。表題はないものの、春の息吹に満ちた作品になっています。初演はメンデルズゾーンが指揮を務めるライプチヒのゲバンハウス音楽協会で大成功を収めました。

第1楽章 アンダンテ・ウン・ポコ・マエストロ、アレグロ・ピバークェ

トランペットとホルンの春の訪れを告げる序奏の動機が始まります。序奏を経て主部に入り弦楽器による力強い

第1主題、木管楽器によるやわらかい第2主題が展開され、いかにも明るい春の気分を満たされています。

第2楽章 ラルゲット

管楽器と打楽器の編成が縮小され、一つの主題によりヴァイオリンが表情豊かに歌い他の弦楽器が和やかに伴奏する3部形式です。楽章の終わりにトロンボーンが次楽章の主題を暗示して第3楽章に続きます。

第3楽章 スケルツォ モルト・ピバークェ

前楽章の旋律を受けてきびきびと進みます。2つのトリオを持つ典型的なスケルツォ形式によるシューマンらしい幻想的な楽章です。

第4楽章 アレグロ・アニマーテ・エ・グラツィオーソ

第1楽章の動機と関連性を持つ序奏に始まり、ヴァイオリンの軽やかな第1主題、オーボエとファゴットの弱奏に次ぐ弦楽器の力強いクレッシェンドで奏される第2主題、そしてホルンの呼びかけに答えるようなフルートのカデンツァを経て再現部に入り、最後はアチェレランドを伴うコーダで全曲を閉じます。特徴的なトライアングルが高揚感を盛り上げます。

■ 出演者

*は賛助出演ならびに団友

■ コンサートマスター

三溝 健一

■ 第1 ヴァイオリン

上野 圭子
小菅 宏造
斎藤 典子
橋本 士郎
折原 裕子*
八國生 紗也乃*

加藤 由香里
小森 裕
洲崎 匡
岩田 貴守*
増井 健一*

■ 第2 ヴァイオリン

青木 由美子
泉 紀子
田中 教生
藤原 満
石津 忠*

安藤 優
竹澤 敏江
八幡 己津子
山田 美幸

■ ヴィオラ

岩下 律子
清水 哉子
古海 法雲
大庫 るい*
宮入 徹*

澤村 昂志
中村 逸郎
渡辺 みほ
長尾 幸*

■ チェロ

池田 なつき
金森 史子
川合 礼
榎木 文子
村治 美代

上野 敦子
金山 美樹
佐藤 充
水澤 由紀

■ コントラバス

秋山 雅央
林 可奈*
山崎 康正*

吉崎 須賀子
松原 直之*

■ フルート

齊藤 孝久
丸山 恵理

福田 幸久

■ オーボエ

羽賀 純子
皆川 正弘

橋本 直子
皆川 未央

■ クラリネット

齊藤 直美
富田 洋加

鈴木 和久
渡辺 英雄

■ ファゴット

鈴木 絢子
宮口 弘明

福嶋 梓

■ ホルン

飯田 美由紀
笹川 修一
森 真人

伊豫岡 美沙
須田 孝義
綿貫 英紀

■ トランペット

菅野 徳嗣
水澤 学

水越 舞

■ トロンボーン

西山 瑤
半田 拓也*

松田 彰英

■ パーカッション

稲田 善智

小浜 史頌

団長 古海 法雲

副団長 茨木 真

■ 楽団について

1972年(昭和47年)に結成されました。当時の日本の高度経済成長に呼応するように、アマチュア音楽家の活動が全国的に活性化される流れのなか、上越においても市民オーケストラ結成の機運が高まり、地域の高校管弦楽団OBら有志が集って演奏会を開催して以来、年2回開催している定期演奏会や各方面からの依頼演奏会を通して皆様に親しまれてまいりました。

現在は指揮者に長谷川正規氏、コンサートマスターに三溝健一氏を迎えて充実した活動を展開しています。

本団では一緒に活動していただける団員を募集しております。募集パート等の詳細についてはお問合せ下さい。素敵で愉快な仲間達と素晴らしい音楽を創りましょう。団員一同、心より歓迎いたします。

■ お問合せ先

Mail: mako2034@joetsu.ne.jp

Tel: 090-1606-1254(副団長: 茨木)

ホームページ:

<http://www5a.biglobe.ne.jp/~jsovn/>



■ 次回演奏会のご案内

第79回定期演奏会

日時: 2017年9月17日(日)14:00 開演
会場: 上越文化会館 大ホール

オッフェンバック / 喜歌劇「美しきエレーヌ」序曲
マスネ / 組曲第4番「絵のような風景」
サン＝サーンス / 交響曲第3番「オルガン付き」

